

3 事業報告書

事業報告書

平成30年度

(平成30年4月1日から平成31年3月31日まで)

(1) 農作物共済関係

(引受)

年産	共済目的	組合員数	引受面積	共済金額	徴収共済掛金(A)	交付金又は納入保険料(B)	手持共済掛金(A)+(B)
		人	a	円	円	円	円
30年産	水稲	43,829	9,395,450.2	76,222,367,907	78,600,739		
	麦	28	14,023.8	17,448,301	786,228		
	計	延 43,857 実 43,832	9,409,474.0	76,239,816,208	79,386,967	4,898,228	74,488,739
元年産	麦	20	10,207.7	12,291,465	441,545		

(被害)

共済目的	被害組合員数	共済金	共済金／共済金額
	人	円	%
水稲	2,745	672,291,995	0.9
麦	12	1,255,938	7.2
計	延 2,757	673,547,933	0.9

(被害の概況)

水稲

梅雨入り後の少雨及び猛暑により、水不足による干害が発生した。

台風による強風の影響で、白穂の被害が発生した。

一部山沿いの地域でサル・イノシシによる食害及び踏み荒らしが発生した。

早生品種を中心に、いもち病・スズメの食害が発生した。

麦 豪雨による停滞水、降雪降雨により土壌湿潤害が発生した。

また、一部圃場でスズメによる食害、赤かび病が発生した。

(評価事項)

水稲 一筆方式

干害、風害、鳥獣害等で1,835戸、11,985筆、134,377aの被害申告があった。

損害評価員等により、実測調査及び悉皆・抜取調査を実施し、適正評価を行った。

水 稲 全相殺方式

風害、干害で9戸、131筆、1,669aの被害申告があった。

損害評価員等により全筆見回り調査を、また、一部圃場において実測調査を行った。併せてJA等の出荷団体から出荷数量等の証明を得て職員が調査し、適正評価を行った。

水 稲 品質方式

干害、風害、虫害、病害、鳥獣害等で2,341戸、1,093,055aの被害申告があった。

損害評価員等により全筆見回り調査を、また、一部圃場において実測調査及び品位判定調査を行った。併せてJA等の出荷団体から出荷数量等の証明を得て職員が調査し、適正評価を行った。

麦 一筆方式

土壌湿潤害で7戸、79筆、718aの被害申告があった。

損害評価員等により、全筆実測調査を実施し、適正評価を行った。

麦 災害収入共済方式

土壌湿潤害で9戸、204筆、6,598aの被害申告があった。

損害評価員等により全筆見回り調査を実施し、併せてJA等の共同乾燥調製施設の出荷資料等を損害評価員、職員及び連合会職員と合同で調査し、適正評価を行った。

(支払)

共済目的	支払月日	実支払共済金	共 済 金 支 払 財 源					実支払共済金／共済金
			保 険 金	手持掛金 充 当 額	法定積立金 充 当 額	特別積立 金充当額	その他	
水稲	12月6日から 3月26日まで	円 672,291,995	円 251,749,774	円 74,027,024	円 346,493,683	円 0	円 21,514	% 100
麦	9月27日から 11月30日まで	1,255,938	397,558	461,715	396,665	0	0	100
計		673,547,933	252,147,332	74,488,739	346,890,348	0	21,514	100

(損害防止)

水 稲

環境保全型農業の推進と水稲病害虫発生予察調査に基づいた、適期・的確な必要最小限の病害虫防除を実施した。また、ポジティブリスト制度に対応し、農薬の適正使用と農薬ドリフト防止対策の徹底を行い安全・安心な防除の実施につとめた。

麦

ほ場の現地確認後、排水対策を指示した。